

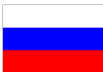
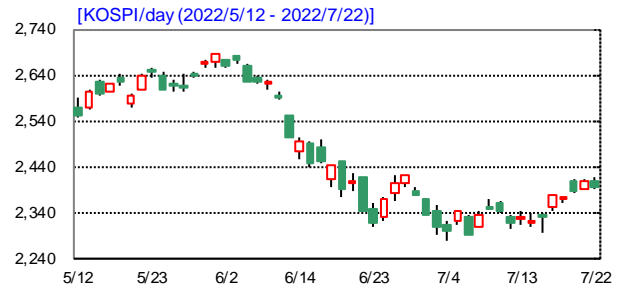


【韓国】 総合指数は週間で2.7%高と反発、今週は2400ポイント付近でもみ合いか

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で2.7%高と反発。米国市場のハイテク株高が韓国市場にも波及し、半導体セクターに買いが入って相場を支えた。週明け18日は前週末比1.9%高。堅調な指標を受けて景気後退懸念が和らいだ。19日は3営業日ぶりに小反落したが、20日から続伸。21日は韓国政府による半導体産業の税制優遇と人材育成の強化策が好感され、終値ベースで6月28日以来ほぼ3週ぶりの高値をつけた。22日は3日ぶりに反落し、心理的節目の2400ポイントを再び割り込んで終えた。ECBが政策金利の引き上げを決めたこともあって、世界景気の減速懸念がくすぶった。今週は、2400ポイント付近でもみ合う神経質な値動きか。26日発表の韓国の4-6月期GDP速報値や、29日発表の6月鉱工業生産が注目の材料となりそうだ。

▼指数チャート

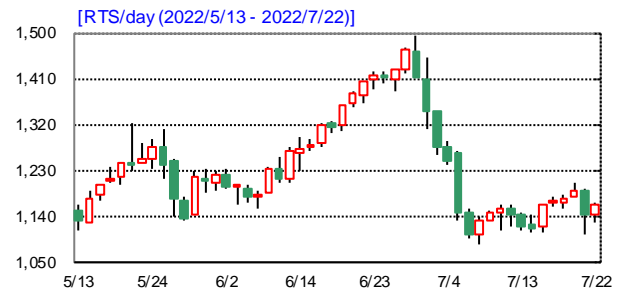


【ロシア】 RTS指数は週間で0.01%安と横ばい、今週も原油・為替が相場を左右か

先週の動き／今週の展望

RTS株価指数は週間で0.01%安とほぼ横ばい。エネルギー株が大幅高となったものの、ロシア中銀の利下げを受けたルーブル安が重しとなった。原油高やルーブル高を受けて20日まで堅調に推移したが、21日に原油安、ルーブル安を背景に大幅に反落し、前週末の水準を割り込んだ。ただ、22日に反発し、週間ベースではほぼ横ばいで終えた。ロシア中銀が政策金利を1.50%引き下げたことで、ルーブルは対米ドルで2.1%下落した。個別銘柄では、エネルギーのスルフトネフテガスが7.4%、ロスネフチが2.9%、ガスプロムが2.5%上昇した一方、産金のポリメタル・インターナショナルが25.4%、ポリユスが7.9%、資源のノリリスク・ニッケルが5.6%下落している。今週も原油やルーブル相場に左右されるか。

▼指数チャート

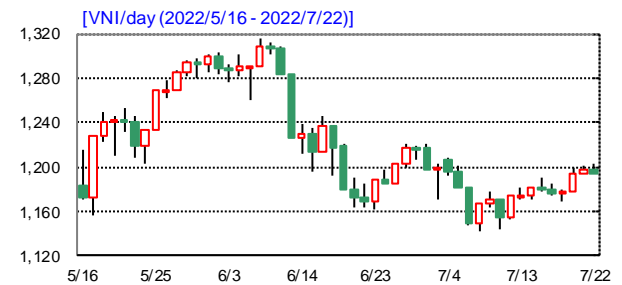


【ベトナム】 ベトナム指数は週間で1.3%高と続伸、今週は底堅い展開か

先週の動き／今週の展望

VN指数は週間で1.3%高と続伸。利上げへの警戒感が和らいだことでセンチメントが改善した。週初の18-19日は狭いレンジでもみ合ったが、エコノミストがインフレはコントロール下にあり、ベトナム中銀は積極的な利上げを実施する海外の主要中銀に追随しないとの見方を示したことが好感された。VN指数は20日に1.3%高となると、21-22日は連日で一時的に1200ポイントを上回り、1194.76ポイントで週を終えた。個別銘柄ではエネルギーのペトロベトナム・ガスが10.6%高、飲料のサイゴンビール・アルコール飲料が7.8%高、食品加工のマサン・グループが7.2%高となった一方、不動産のビンググループが4.5%安、ビンホームズが2.2%安、鉄鋼のホア・ファット・グループが4.3%安となった。今週は底堅い展開か。

▼指数チャート

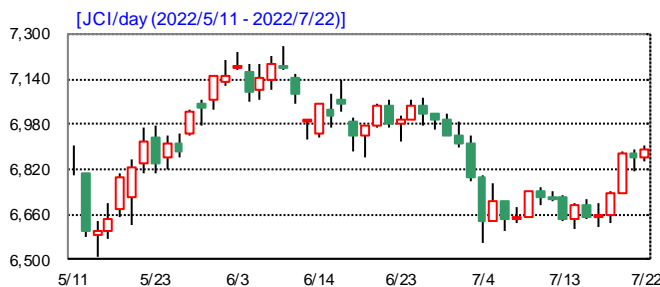


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 3.5%高、中央銀行が政策金利の据え置きを決定

ジャカルタ総合指数は週間で 3.5%高と 4 週ぶりに反発。外部要因が指数を押し上げた。週初の 18 日は、翌週に控えた米 FOMC での大幅な利上げ観測が後退したほか、中国株が上昇した効果で反発。19 日は資源株が指数上昇をけん引し、前日比 1.2%高と続伸すると、20 日は前日の NY ダウの反発に加え、ロシアによる欧州向けのガス供給が再開されるとの見通しを受けた世界的な株高に連動して、前日から 2.1%上昇した。21 日は中央銀行が政策金利を過去最低水準の 3.50%に据え置き、金融株の一角が売られて小幅反落したが、22 日は反発して引けている。今週も外部要因が相場を左右する展開が続くそう。

▼指数チャート

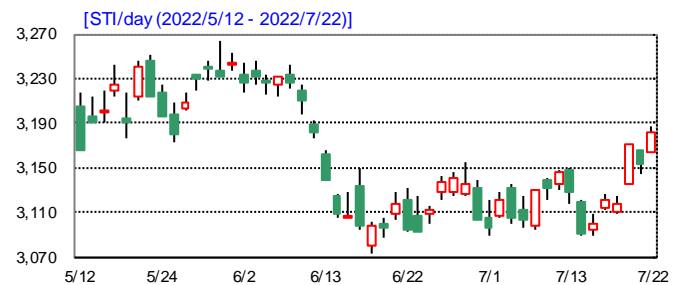


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 2.7%高、今週は 6 月の CPI に注目

ストレーツタイムズ指数は週間で 2.7%高と反発。1 週間を通じて終始 3100 ポイント台で推移した。週初の 18 日は、6 月の非石油地場輸出が前年同月比 9.0%増と市場予想から上振れした効果などで指数は続伸。個別の銘柄では、米 MGM リゾーツに株式の一部を売却するとの報道を否定したゲンティン・シンガポールが売られた。指数は 19 日に小幅反落したが、20 日は前日の NY ダウが大幅上昇した流れを引き継ぎ、前日比 1.7%高と反発。週後半も一進一退の値動きが続いた。今週は 25 日の 6 月の CPI に続き、26 日には鉱工業生産が発表される予定。外部要因では 26-27 日に開催される米 FOMC が焦点になる。

▼指数チャート

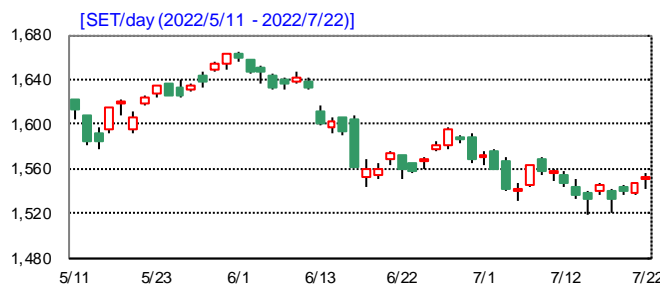


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.3%高、銀行部門の好決算が追い風

SET 指数は週間で 1.3%高と 3 週ぶりに反発。狭いレンジでの値動きが続いた。週初の 18 日は原油価格の上昇でエネルギー株が買われた効果などで、指数は 6 営業日ぶりに反発。19 日はミャンマーの経済危機に対する警戒感の高まりが嫌気されて反落したが、20 日は米企業の好決算が買い材料となり反発した。21 日は国内の銀行部門の決算が好調だったことが好感されて買われると、結局、22 日まで 3 日続伸して取引を終えている。今週は 25 日の 6 月の貿易統計（通関ベース）に続き、29 日には鉱工業生産が発表される予定で、市場予想を上回れば株式相場の追い風か。28 日は国王誕生日の祝日で休場となる。

▼指数チャート

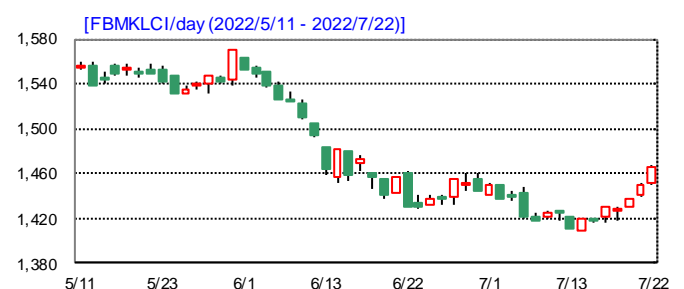


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 3.3%高、週末に終値で約 5 週間ぶりの高値更新

クアラルンプール総合指数は週間で 3.3%高と 3 週ぶりに反発。じりじりと上値を広げた。週初の 18 日は、前週末の NY ダウが大幅に上昇した流れを引き継ぎ反発。19 日は小幅反落したが、20 日は世界的に景気後退懸念が和らいだほか、6 月の貿易収支が市場予想から上振れした効果で買い戻された。21 日はロシアのドイツに対するガス供給の再開などが買い材料視されて続伸すると、22 日は 6 月の CPI 上昇率が前年同月比 3.4%と予想を上回る伸びを示したものの影響は軽微で、指数は前日比 1.1%高と約 5 週間ぶりの高値を更新して取引を終えている。今週は外部要因が株式相場を左右する展開になりそう。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。